

2025 年度 講義概要

2025 年度 講義概要

科目名	地域生活支援論	単位数	1	時間数	15	開講時期	3学年・前期	担当	専任教員 (看護師)								
目的	多様な場で生活する様々な健康レベルにある人々の生活の質を向上できるように、地域や人々のもつ力を引き出す支援を学ぶ。																
目標	1. 母子、成人、高齢者などのライフステージにある人々に関する地域看護活動について理解できる。 2. 地域看護活動の場の特性（保健所、保健センターなど）を理解できる。 3. 障害、難病などの療養者を取り巻く環境や支援について理解できる。 4. 地域の病院・診療所・外来部門など地域医療の場を想定した多職種連携を理解できる。 5. コミュニティアセスメントを行い、地域の特性を理解できる。																
授業計画・内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th><th>方法</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 地域看護活動の場 1) 保健所 2) 保健センター</td><td>演習：グループワーク</td></tr> <tr> <td>2. 地域保健活動の実際 1) 母子保健活動 2) 成人保健活動 3) 高齢者保健活動 4) 障害者・難病保健活動</td><td>ゲストスピーカー ・市の保健師 ・草津保健所の保健師</td></tr> <tr> <td>3. コミュニティアセスメント 1) コミュニティアセスメントの目的 2) コミュニティアセスメントの方法 3) コミュニティアセスメントの実際</td><td>演習：グループワーク ①地域の市町村についてこれまでの学習をもとに分析 ②地域の現状や課題を明確にする ③コミュニティマップを作成</td></tr> </tbody> </table>					内容	方法	1. 地域看護活動の場 1) 保健所 2) 保健センター	演習：グループワーク	2. 地域保健活動の実際 1) 母子保健活動 2) 成人保健活動 3) 高齢者保健活動 4) 障害者・難病保健活動	ゲストスピーカー ・市の保健師 ・草津保健所の保健師	3. コミュニティアセスメント 1) コミュニティアセスメントの目的 2) コミュニティアセスメントの方法 3) コミュニティアセスメントの実際	演習：グループワーク ①地域の市町村についてこれまでの学習をもとに分析 ②地域の現状や課題を明確にする ③コミュニティマップを作成				
内容	方法																
1. 地域看護活動の場 1) 保健所 2) 保健センター	演習：グループワーク																
2. 地域保健活動の実際 1) 母子保健活動 2) 成人保健活動 3) 高齢者保健活動 4) 障害者・難病保健活動	ゲストスピーカー ・市の保健師 ・草津保健所の保健師																
3. コミュニティアセスメント 1) コミュニティアセスメントの目的 2) コミュニティアセスメントの方法 3) コミュニティアセスメントの実際	演習：グループワーク ①地域の市町村についてこれまでの学習をもとに分析 ②地域の現状や課題を明確にする ③コミュニティマップを作成																
評価方法	授業参加状況、課題、筆記試験																
テキスト	① 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 ② 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 医学書院 ③ 厚生の指標 増刊 国民衛生の動向、一般財団法人 厚生労働統計協会																
参考書	地域看護アセスメントガイド アセスメント・計画・評価のすすめかた					医歯薬出版											

2025 年度 講義概要

## 2025年度 講義概要

科目名	母性看護学実習	単位数	2	時間数	90	開講時期	3学年・通年	担当	専任教員 (看護師)
目的	周産期にある母子の特徴と健康課題を理解し、各期に応じた母子とその家族に必要な基礎的な看護の実際を学ぶ。 生命の誕生や命を育む過程に触れることで、「命」「母性」「父性」「家族」について自己の考えを深める。								
目標	1. 妊産褥婦の身体・心理・社会的変化と経過を理解し、各期に応じた必要な看護を理解できる。 2. 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活への適応を促す援助を理解できる。 3. 褒婦の心理および親子関係・家族の形成を促すための援助の必要性を理解できる。 4. 生命の尊厳や母性の尊厳について、自己の考えを深めることができる。								
	内容								
授業 計画 ・ 内容	1. 実習期間 7月頃 オリエンテーション・技術確認 6時間  学内3日間 (24時間) 9:00～16:10 8時間 × 3日間 病棟8日間 (60時間) 8:30～16:45 10時間 × 6日間  2. 実習場所 済生会滋賀県病院 6東病棟 産科外来  3. 実習方法 実習は、原則グループメンバーが1チームとなり実施する。 1) 学内実習 実習1・2日目 ① 提示した事例の妊娠初期・中期・後期に必要な保健指導と分娩期の看護の実際を立案する。 ② 立案した保健指導をロールプレイし、実施した内容についてリフレクションを行う。 ③ 実習に必要な技術練習 実習最終日 ① 臨地で関わった褒婦と新生児の保健指導を立案する。 ② 保健指導のロールプレイを行い、実施した内容についてリフレクションを行う。 ③ 実習成果発表会 2) 病棟実習 ① 学生5人ないし6人で2組の母子を受持つ。 (自分が主に関わる母子を選定し、出来る限り退院まで同じ母子と関わる) ② 担当している母子の情報収集を行う。(電子カルテ、コミュニケーションなど) ③ 担当制で関わった母子について、全員で毎日リフレクションを行い、母子について共有し、当日の状態の把握と翌日の課題について討議する。 ④ 当日関わった褒婦および新生児の経過をアセスメントし、状態を評価する。 ⑤ 下記の項目内容を病棟実習期間内に最低一回以上経験する。 CTGモニター装着脱・判読、新生児のVS・沐浴、外来での保健指導の見学、胎盤観察 ⑥ 下記の項目内容を病棟実習期間内に機会があれば経験する 正常経過を逸脱した妊婦(切迫早産、悪阻等)との関わり、分娩見学								

詳細は実習要項参照

2025 年度 講義概要

## 2025年度 講義概要

科目名	統合実習	単位数	2	時間数	90	開講時期	3学年・後期	担当	専任教員 (看護師)
目的	看護チームの機能と役割遂行・看護管理について既習の知識を統合し、チームの一員として求められる看護実践力を習得する。								
目標	1. 受け持ち患者の問題をとらえ、必要な援助を看護チームおよび多職種と連携して実施できる。 2. 複数の患者を受け持ち、必要な援助の優先順位を考えて実施できる。 3. 夜勤帯における看護業務、患者の安全、患者の状況について理解できる。 4. チームの一員としての役割を認識し、主体的に責任ある行動がとれる。								
授業計画・内容	1. 実習期間：10日間 病棟：9日間 (10時間×8日+半日5時間=85時間)、学内：1日 (5時間)  2. 実習場所：済生会滋賀県病院 (6西、7東、7西、8東、8西、9東、9西病棟)  3. 実習方法 1) 専門職業人として働く上での自己の課題を踏まえ、上記の7つの病棟から実習する希望病棟を選択する。  2) 実習病棟が決定したら、実習に必要な事前学習を行う。  3) 病棟オリエンテーション オリエンテーションは、学生からの質問形式で行う。 病院の方針に応じた病棟管理については看護課長に対応してもらう。  4) 2日目以降、受け持ち患者を1名決め、チームの看護師と共に看護実践を行う。  5) 4日目以降、もう一人受け持ち患者を追加し、複数患者の看護実践を行う。 (1) 1人目の患者は、指導者より簡単な情報を提供してもらい、患者の問題と必要な援助を理解する。 (2) 2人目の患者を、2日目に提供してもらい、自分で情報収集を行う。 (3) 3日目以降、チームの看護師と行動調整して、複数患者の援助を実施する。(必要時、一緒に) (4) 受け持ち患者に関する報告・相談は、受け持ち看護師に行う。 リーダーへの報告は、受け持ち看護師と相談して行う。 受け持ち患者に行われている診療補助技術についても、看護師の指導下で実施する。 (服薬管理、点滴注射の準備、経管栄養の準備と管理など)  6) チームカンファレンスに参加する。 (1) 受け持ち患者に必要な支援をアセスメントし、看護チームに発信する。 (2) 多職種から、患者に必要な支援について情報を得る。  7) 受け持ち患者への看護援助以外に経験可能な看護援助があれば、指導者に相談し実施する。  8) 実習期間中に1日の夜勤帯の看護業務を見学する。 夜間の安全管理、夜勤帯の処置や援助、業務間の引継ぎ、看護師・多職種との連携、 夜勤帯の患者の状況、緊急時の対応 夜勤帯実習は12:30～21:00で、翌日は午後のみ(13:00～16:45)の実習とする。  9) 各病棟での学びをまとめ、全体で共有する。  10) 実習を通しての学びをレポートにまとめる。								

詳細は実習要項参照